

# 令和7年度 下水道維持管理業務取組み発表会

## 発表概要

所属 宝満川浄化センター
発表タイトル 市販品を活用した映像ソリューション
取組の目的 当センターが抱える下記の課題を解決するもの。 <ul style="list-style-type: none"><li>①処理状況を中央操作室の監視装置画面を執務室でも閲覧したい。</li><li>②I T Vがないエリアでも、現場の状況を精細な映像で確認し、指揮・判断に生かしたい。</li><li>③処理場の「今」をいつでも、どこでも把握したい。</li></ul>
取組内容 <ul style="list-style-type: none"><li>①市販の製品を活用し、映像監視システムを構築した。中央操作室にある全4種の監視端末の映像を執務室で視聴を可能とした。</li><li>②市販の監視カメラを活用し、エリアを問わず使用可能なカメラシステムを構築した。</li><li>③既存システム（リモートデスクトップ・Web会議システム）と連携したさらなる活用方法について検討を行った。</li></ul>
取組成果・効果 <ul style="list-style-type: none"><li>①紙とは異なり、執務室で処理場の「今」が見えるため維持管理業者との意思疎通、職員間での情報共有が容易になり、時間の短縮につながった。</li><li>②監視カメラは工事の進捗確認やセンター内での情報共有に活用でき、担当者、維持管理業者、工事請負者の負荷軽減につながった。また、映像を記録できるため、作業の振り返りやエビデンスに活用できるため、維持管理技術の向上につながった。</li><li>③リモートデスクトップとの連携により、どこでも、いつでも処理場の状況を視聴可能になった。進捗確認や立会に利用可能であり担当者の負担軽減につながった。また、処理場の状況把握が可能となり、場外においても適時、適切な的確な判断や指示が可能となった。</li></ul> <p>また、既設のWeb会議システムと連携により、本社や県とも映像の共有が可能となった。組織をまたいでリアルタイムでの情報共有が可能となり、災害等の緊急時の迅速な対応に大きく寄与できるものと推察される。</p>